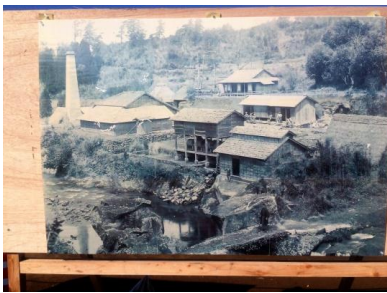




事務所に自生する鹿の子百合

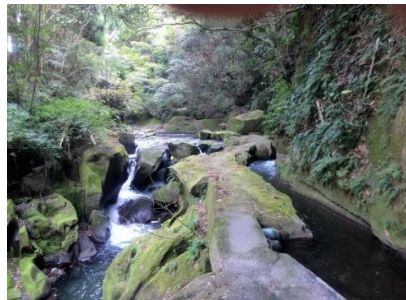


水上坂本陣跡の針も通さない石組



鹿児島にはまだ沢山の観光素材があります。上絵は最近発掘された宮内金精錬所跡の当時の様子です。

集成館事業遺産群が世界文化遺産に登録された関吉の疎水溝、寺山炭窯跡等、これから観光資源になっていくところでしょう。



鹿児島県はおもしろい
鹿児島県はたのしい
鹿児島県はおいしい
鹿児島県はあたたかい
そして
鹿児島県は不思議のくに

ひっくすべ

第2号

“祝世界文化遺産登録”

発行者
NPO法人
かごしま新発見伝塾
〒891-1231
鹿児島市小山田町 6980
Tel 099-238-7282
Mail info@kagoshima-shinhakkenn.net
http://www.kagoshima-shinhakkenn.net

ご挨拶

平成一七年も残すと二とあわずかとなって参りました。皆様方にはこの一年をこのようにお過ごしになられましたでしょうか。

サツマスチューデント達が羽島から船出して、一五〇年。終戦から七〇年。国文祭開催と色々な留めておきたいことがありました。

NPO 法人かごしま新発見伝塾としましては、新しい試みとして、市の助成事業に参画を申請しましたが、認可がおりなかったとか、国の指導でバスの認可料金の順守が徹底されて、結果的にバス料金が今までより大幅な引き上げとなって、一時ツアーの計画も困難な状況になりました。その中でも原口泉教授の野外歴史教室サツマスチューデント・ズ・ロンドンへや 田水の日本一さがしと甘いみかん狩りなどのバスツアーをやり遂げられたのは、皆様方の暖かい応援があったからこそと心から感謝申し上げます。また、歴おじよの街歩き「も累計三三三回」五一回に達しました。これからも信念をもって邁進して参りますので、更なるご支援を頂きます様よろしくお願い申し上げます。

平成一八年も佳き年でありますように
特定非営利活動法人かごしま新発見伝塾

理事長 今井 俊子

原口教授の野外歴史教室バスツアー

「サツマスチューデント、ロンドンへいって出陣」

寄稿 留学生派遣のいきさつ

安政五年（一八五八）七月八日夜、斉彬は悪寒、腹痛の症状を訴え、わずか一週間後、日本の未来を案じつつこの世を去りました。斉彬の遺言により、二九代となった忠義の後見人久光は順聖院様（斉彬）を慕う誠忠組と共に国政に参画します。

文久二年（一八六二）武威国橋樹郡生麦村を通過中の久光の行列に馬に乗った四人のイギリス人が入り込み、激怒した藩士ガリチャードソンを斬り、死亡させました。薩摩は悪いのはそちらで下手人も逃げてしまい、賠償金も払わぬ！と言ってはみたものの、イギリス艦隊の来襲に備えて、閉鎖されていた集成館事業を再開し、明るく文久三年（一八六三）正月過ぎから操練を行い、二月には城下を中心に集合規則が発令され、やがて地方へも戦闘体制が整えられていきました。藩は外国と戦う為には大型蒸気船が欠かせないと考え、長崎で二隻購入し、「白鳳丸」「青鷹丸」と名付け、天祐丸と共に三隻保有することになりました。そして、城下の十ヶ所に台場を設け、大砲九十二門が設置され弾や火薬は集成館で豊富に製造され、湾内はさながら要塞と化していきました。幾度となく実射訓練を行い、精度も向上し、命中率も高くなつていき、六月十九日には大規模な模擬訓練まで繰り広げて、久光、忠義親子は大いに満足したようでした。

六月二十七日、イギリス国旗を掲げた七隻の軍艦が湾内に入港し、城下には三万の薩摩兵がそれを迎え、緊張も高まる中、交渉決裂。七月一日忠義は開戦を決意し、絵師達と呼ばれて、城内の襷絵を急ぎ模写させ、戦火で焼失した場合、城の再建の際の道筋も作って準備したようです。

戦闘は丸一日続き、イギリス軍には人的損害が多く、一方城下の民家が焼き払われ、礮の反射炉も砕け散り、いわゆる「前ん浜ゆづき」は終わりました。戦いを終えた時、今更乍ら斉彬の持論であった「攘夷は無謀の大和魂」を身を持って知ることとなり、イギリスに学ぼうとする機運が高まり、五代友厚が中心となって、紡績機の購入や、貿易交渉、留学生の派遣などが決定されました。そして、選抜された十九名が串木野羽島浦から未知の国へ旅立ちました。

維新ふるさと館で放映されている「サツマスチューデント西へ」の中で長沢鼎が旅立つ際に言うセリフがあります。「こん留学は学問ちゆう矢をつがえ、薩摩魂ちゆう刀で戦うもんじや」と。鬚を切り刀をはずしたサツマスチューデント達の目に未来はどのようだったのでしょうか。 今井俊子

* 参考文献 吉村昭 至麦事件



五代友厚の墓

墓地所：大阪阿倍野墓地
1836～1885
日本の近代化に大きく貢献した。後に大阪の経済建て直しに尽力
大阪商工会議所初代会頭
大阪市立大学設立

ただいま桜島ジオガイド勉強中！

朝日が桜島の東から昇りはじめると、黒い桜島がだんくと明るく輝き出し、錦江湾にどっかりと腰を下ろしているのがわかります。一日数回、一年に千回近くも噴煙を上げ、風向きによりド力灰を降らせる厄介者。今やテレビで桜島の灰がどちらに降るのかを確認するのは鹿児島島の風物詩になっています。

県外から訪れた観光客は噴煙を上げる桜島に渡ることに驚き、人が住んでいることに更に驚かれます。太陽が天高く昇り、正午を過ぎて、次第に西の空に沈むまで七色に変化する美しさは例えようもありません。山頂は北岳と南岳の二つに分かれ、北岳は五千年前に活動を停止した死火山となりました。山頂から麓にかけて次第に植物が生え、木々も生い茂り緑が周りを覆い尽くす扇状地へと変わっていったのです。縄文時代には人々が定住するようになり、桜島と共に歴史を刻んできました。桜島小みかん、桜島大根、ピワ等水気のない乾いた大地にもしっかりと育ち、火山灰をもものもしない椿も自生しています。人々は噴火と共に暮らしながら、豊かな恵みを享受してきました。今や地下100km地点には大正噴火の九割の量のマグマだまりがあると言われます。何年か先には大噴火が予想されておりますが、観測体制が整い、情報もきちんと伝えられる今日、大切なことは常に冷静に落ち着いて行動する事ではないかと思えます。皆様もつと桜島を身近に感じて楽しみましょう。

今井俊子

シリーズ「かごしまの女性」 其の二

島津家を救った女性〜竹姫〜

享保の時代に將軍家から島津家に嫁いで来た姫君がおります。5代將軍綱吉の養女竹姫様です。竹姫は京都の公家 清閑寺熙定の娘で、叔母は綱吉の側室 大典侍の局。竹姫4歳の時江戸城大奥へ引き取られ、15歳の時「宝永5年1708」綱吉の養女となりました。竹姫は大変賢く教養豊かで大奥での力も大きなものだったようです。縁談も2度 会津松平正容の嫡子久千代 有栖川正仁親王（ありました）が、2人とも先に亡くなりました。やがて8代吉宗が大奥の人減らしの為もあり、竹姫の嫁ぎ先を探します。選ばれたのが島津家でした。当時の藩主は第22代 継豊。しかし側室お嘉久の方が男児を出産し、正室は亡くなつたばかりでした。継豊はそれを理由に断るのですが、吉宗も負けてはいません。もし、竹姫との間に男子が誕生しても先に生まれた男子を世継ぎにするにはよいから」と言う。大奥の女性達にも ぞち達からも推薦して「ねよ」と頼む。その時の女性達の記録が残っている。「…竹姫様は「きりやつはすべれかね候得共、殊の外御発明さまにて…」結局押し付け結婚でした。継豊28歳、竹姫36歳といわれます。竹姫が嫁いで来てても住まう屋敷がない、と言うと徳川家は藩邸の隣に7000坪の土地を与え、屋敷は島津で建てよと言う。継豊は従四位上で

すが、竹姫は御守殿様と呼ばれました。御守殿さまと呼ばれるのは三位以上の大名に嫁いだ人なのですが、竹姫は例外でした。この縁組により、島津家の地位は飛躍的に向上し幕府も単なる外様大名としては扱えなくなりました。

竹姫は女子を一人産んだので、心配された世継争いは起りませんでした。

吉宗と竹姫の關係もはなはだよく、お正月に御城へ御挨拶に伺つた時のことが記録されています。竹姫は益之助へ3代宗信と菊姫 竹姫の産んだ子を伴つて吉宗に御挨拶に参りました。吉宗は大層上機嫌で益之助に「私が刀を上げよう」と言う。益之助は「知らない。刀は家にたくさんあるから。」と答えた、と言う。又菊姫に向かつて、將軍の座から、「こちらにおいて」と手招きすると、おじぢやまがきて「この吉宗は、そつかそつか」と言いながら菊姫の所に来たそうです。

竹姫は宗信と重豪を養育しますが、スケールの大きい竹姫の影響は計りしれないものがありました。後の茂姫が徳川家斉の御台所となつたのも、大奥の女性達が 竹姫様の御遺言のままに「と言ったからです」。

竹姫は安永元年（1772）79歳でこの世を去りました。墓は福昌寺跡に遺されていますが、威風堂々として風格があります。

* 参考文献 鮫島志芽太「島津斉彬の全容」



竹姫の墓（福昌寺跡）

NPO法人かごしま新発見伝塾

目的概要

その地域の人でさえ見過ごしているような余り知られていない鹿児島 naturally 歴史文化食など埋もれた観光資源を発掘し、多様な魅力を紹介し、地域振興に取組みます

事業

- ①観光資源の発掘に関する事業
 - 観光資源の発掘事業
 - 発掘した観光資源を紹介する事業
 - 知るを楽しむかごしま新発見のバスツアー
 - ②街歩きに関する事業
 - 知るを楽しむ歴おごじよの街歩き
 - ③観光に携わる人材育成に関する事業
 - 観光ガイドの育成事業
 - 原口教授の野外歴史教室事業

これまでの活動実績

前年12月、創刊号以降の活動主なものを挙げてみました。会員の皆様をはじめご参加頂きました方々に感謝です。

街歩き(街歩きに関する事業)

- 平成27年3月 3回 女の道は一本道・篤姫様の江戸上り
- 平成27年4月 30日 殿様の参勤交代の道・水上坂と常磐町。
- 平成27年5月 2回 第20回斉彬の夢、産業革命は薩摩から始まった
- 平成27年7月 2回 斉彬が築いた日本の近代化・世界文化遺産・磯地区
- 平成27年9月 2回 9月は西郷さあを語りもんぞ
- 平成27年11月 2回 第23回殿様の初入部、水上坂と常磐町

知るを楽しむバスツアー(観光資源の発掘に関する事業)

- 平成27年3月14日 春風によって、南薩の旅
- 平成27年11月28日 出水、日本一さがしと甘〜いみかん狩り

グランドマスター・フィールドワーク(観光アドバイザーに関する事業)

- 平成27年3月7日 世界文化遺産登録予定地を訪ねる
- 平成27年9月18日 あの日を忘れない、平和への希求・鹿屋戦跡巡り

原口泉教授の野外歴史教室(観光に携わる人材育成に関する事業)

- 平成27年9月13日 翔べ羽ばたけ！サツマスチューデント、いざロンドンへ！

これからの予定(28年前期)

街歩き(街歩きに関する事業)

- 平成28年3月 山形屋、実は文化の殿堂・バックヤードツアー
- 平成28年4月 鹿児島市のふるさと・上町街歩き
- 平成28年5月 一回では歩けない上町・第2弾

知るを楽しむバスツアー(観光資源の発掘に関する事業)

- 平成28年3月26日 大好評一日遠足「春風によって南薩路」
- 平成28年4月17日 へえ〜そうなんだ！おもしろ歴史旅・義弘の生涯・南薩編
- 平成28年6月30日 志布志発夏越しの祭りとお初物夏そばと旬の鱧料理

原口泉教授の野外歴史教室(観光に携わる人材育成に関する事業)

- 平成28年9月4日 西郷(せご)さあシリーズ大隅編

グランドマスター・フィールドワーク(観光アドバイザーに関する事業)

- 平成28年3月12日 伊集院の「院」から入る日置の歴史

編集後記

やっと2号発行です。一年に2回は発行しようと思っていたのですが・・・相変わらずの構成で目を通して頂けるか不安ですが、小職の今の実力です。この次こそ目に留まる記事で埋められるようしたいものです。会員の皆様からのご意見やエッセー・紀行記など投稿もお待ちしております。

編集責任者 今井征男



原口教授の野外歴史教室・羽島